

令和6年度（2024年度）

学校関係者評価 報告書

学校法人巨樹の会
下関看護リハビリテーション学校

本報告書は、学校法人巨樹の会 下関看護リハビリテーション学校の職業実践専門課程認定に関わる学校関係者評価委員会の評価結果を記したものである。

令和7年7月1日

学校長 林 研二

学校評価実施責任者

理学療法学科 副学校長兼事務長代行 山崎 圭
看護学科 副学校長 田中 亜紀子

<目次>

1. 学校関係者評価の概要と実施状況
 - 1) 学校関係者評価の目的、方針
 - 2) 学校関係者評価委員
 - 3) 学校関係者評価委員会の開催
 - 4) 学校関係者評価の実施

2. 学校関係者評価の内容
 - 項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像
 - 項目Ⅱ 学校運営
 - 項目Ⅲ 教育活動
 - 項目Ⅳ 学修成果
 - 項目Ⅴ 学生支援
 - 項目Ⅵ 教育環境
 - 項目Ⅶ 学生の募集活動、広報活動
 - 項目Ⅷ 財務
 - 項目Ⅷ 法令等の遵守
 - 項目Ⅹ 社会貢献、地域貢献

1. 学校関係者評価の概要と実施状況

1) 学校関係者評価の目的、方針

- ① 関係業界・職能団体、高等学校、卒業生、学生保護者、地域住民などの学校関係者が、本校の自己評価の結果を評価することで、その妥当性を確認し、客観性・透明性を高めることを目的とする。
- ② 学校関係者評価により、本校の学校運営・教育活動における課題を明確にし、その意見を参考に学校運営の改善を図る。
- ③ 学校関係者評価は、本校の自己評価を基に、「専修学校における学校評価ガイドライン」、および本校の学校評価実施規程に則り実施する。

2) 学校関係者評価委員

業界関係者 : 山口県理学療法士会 副会長 綿谷 昌明
安岡病院 看護部長 古本 たつ子

卒業生 : 下関病院 看護師 八木 航亮
下関市立市民病院 理学療法士 宇都宮 功一
地域住民 : 下関市市会議員 林 真一郎
彦島自治連合会 会長 二見 勝敬
高校等評価委員 : 下関国際高等学校 学校長 上田 晃久

※敬称略、順不同

3) 学校関係者評価委員会の開催

日時: 令和7年3月26日(金) 14:00~16:00
場所: 下関看護リハビリテーション学校 会議室

4) 学校関係者評価方法

令和6年度の自己評価に基づき、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- ① 自己評価の結果および内容が適切かどうか
- ② 課題やその解決への方向性が適切かどうか
- ③ 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- ④ 学校の運営に関する助言

2. 学校関係者評価の内容

学校関係者評価、自己評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による4段階の評定基準にて実施した。

【評定基準】

- S : 十分に達成している。 (達成度が高い)
A : 達成している。 (概ね達成しており、明らかな改善は要しない)
B : 達成がやや不十分である。(若干の改善を要する)
C : 達成が不十分である。(不適合がある、明らかに改善を要する)

項目 I 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

教育理念・目的・目標等については、学内掲示・学生便覧・パンレット・HP等で広く公表することで周知を図っている。教育理念に基づいて学年毎の到達目標を作成し、学生に提示し、学生も1年間のクラス目標・スローガンを立て、それを基に個人の目標を立てて勉学に励んでいる。年度初めに講師会議を行い、また毎月の実習指導者会議において意見交換を行っている。現在実施している周知の方策を継続し、理解を促していく。

課題

特になし

改善の方策

特になし。

学校関係者評価委員会からの意見

特になし。

小項目 I-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

「人間愛・自己実現」という基本理念のもと、技術と知識を基盤とした実践能力のある理学療法士・看護師を養成するとともに、対象者を共感的に理解し、受け入れ、主体的に専門的な知識・技術を生涯追求し、人格向上のための自己研鑽を怠らず、自己実現を成し遂げることができる人材を育てていくことを本校の教育理念としている。学生便覧にも明確に記載されている。また、この教育理念に基づき両学科共に教育目的・目標を掲げ学生教育に取り組んでいる。

小項目 I-2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界(高校、病院、実習施設など)に周知されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

教育理念・目的・目標等については、学内掲示・学生便覧にて学生・保護者に周知するとともに、パンレット・ホームページ等で公表している。総括に記載のとおりである。

小項目 I-3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。

【理学療法学科】

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

本法人および本校の教育目標、人材育成像は、日本理学療法士協会の教育ガイドラインに記載されている到達目標に沿って設定されている。また、教育課程編成委員会ならびに実習指導者会議等を通じて、業界ニーズを教育に取り入れている。

学科の教育目標、人材育成像については学生便覧に掲載し、学生への周知を行っている。また、デュプロマポリシーをホームページにて公表している。

実習の実施にあたっては、実習反省会や日頃の実習訪問等にて実習病院からも意見をいただき、随時修正が行えている。

【看護学科】

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

教育目的・教育目標、学年ごとの達成目標を学生便覧に明記し、学生及び教職員にも周知している。新カリキュラムによる教育を今年度から実施している。看護の対象者について、地区踏査しながら地域をリサーチしたり、地域の人と触れ合うことで、「地域の生活者」という視点を育むことができた。また多職種についてもカリキュラムに反映し学習することで、より地域包括ケアシステムでも活躍できる人材育成にも役立っている。

項目Ⅱ 学校運営

総括

年度ごとに学校法人巨樹の会の方針が出され、それに基づき学校の教育方針、重点目標を設定している。年度初めに学科の管理目標を提示し、各学年にて運営と教員の個人目標を設定し、年度末に評価を行っている。

学校運営会議・管理会議が意思決定の場として十分に機能し、教員会議で報告検討することで、教職員の意思統一が図れている。

情報システムについては、学事サーバーにて情報管理を行い業務の効率化を図っている。

セキュリティの向上を図るために、学生には SNS 使用時の研修を入学時に組み入れている。タブレットを学生全員へ配布しており、悪天候などによる交通機関の運休等が発生した場合でも、リモート授業が実施できている。講義資料や学生連絡についてもクラウドツールを利用し、今年度より完全ペーパーレスを実施した。保護者にも公式 LINE を導入し、迅速な連絡を取れるようにした。教員間の会議もクラウドツールを利用し、完全ペーパーレスによる情報共有ができている。

課題

会議議事録の作成および回覧について、更なる効率化が図られるのではないか。

改善の方策

音声変換による議事録作成を実施し、検証していく。

学校関係者評価委員会からの意見

会議議事録の作成や回覧などの工夫を期待する。

小項目Ⅱ-1

教育理念・目的・目標等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価: S : 適合

■コメント

学則に「会議、委員会の組織並びに運営」について示されている。

概況書に運営組織図、運営組織図(会議の位置づけ)が掲載されている。

法人および学校の運営方針に沿って学科の運営方針・目標を策定し、学科会議にて説明・配布している。

小項目Ⅱ-2

運営組織や意思決定機能は、規則などにおいて明確化されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

各職位における役割を就業規則の「職務分掌規程」に文書化されるとともに、各職位の関係を概況書に運営組織図として掲載している。

各会議も「定期的に行われており、議事録も関係者に回覧するとともに捺印をもらい、保管している。

運営方針・計画は学科会議にて全員に意思統一を図り、学科会議で提案されたことは、最終的に管理会議、学校運営会議で決定されている。

小項目Ⅱ-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

関連校・病院との会議でオンライン会議アプリ(Zoom)を使用したことで、移動時間が無くなり大幅な業務改善に繋がっている。

Google drive へ会議資料等をアップすることにより同時入力が可能となったことで、効率化につながっている。また、会議おけるペーパーレスが進んだ。

保護者への連絡用として公式 LINE による一斉送信を行った。概ね、保護者への連絡は問題なく行うことができた。

学生については、タブレットに入れたロイロノートアプリや google class room を用い連絡・報告を実施している。

学事サーバーを導入し、学生に関する情報管理を行っており、学習支援のための情報、個人面談、保護者面談時の情報として適宜活用している。また、3 月末の単位認定、進級判定、卒業判定会議の資料として活用する。

セキュリティ管理については、UTM(総合脅威管理システム:外部からのサイバー攻撃から守るもの)令和 3 年度より導入している。また、ウイルス対策ソフトも導入しセキュリティ強化を実施している。

勤怠管理システムを用いて、職員の勤怠管理も適切になされている。

項目Ⅲ 教育活動

総括

学校法人の教育理念のもと、指定規則に従い、教育課程編成を考え、学年別の到達目標を挙げている。学生の理解や意欲の状況を見ながら学習の支援を行っている。理学療法学科は新しい指定規則のもとで、理学療法士協会のモデルコアカリキュラムに準拠してカリキュラムを作成している。看護学科は令和 4 年度から新カリキュラムへと改定され、教員各自が授業計画を立案し、学科会議の中で検討することを継続している。授業評価は各科目の終了時に受け、データが即グラフ化され、タイムリーに分析、表示できている。教員は評価を分析し次の講義に活かしている。キャリア教育に関しては、1 年次より段階的にスキルアップできるように、教科外活動を含め、カリキュラムに組んでいる。専門職連携教育(以下 IPE と記す)を 5 年前から実施し、効果を上げている。看護学科の新カリキュラムでは IPE は必須であり、理学療法学科と協働し、今後も勧めていく。

課題

特になし。

改善の方策

特になし。

学校関係者評価委員会からの意見

教育活動は充実しており「S」であっても良いのではないかとと思うが、時代の流れとともに変化の必

要性を感じているということで「A」とした自己評価を尊重する。

小項目 Ⅲ-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

教育課程の編成方針、実施方針に関しては教育理念のもと、指定規則に従い、グループのカリキュラム委員会運営委員会で決められている。

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

新カリキュラムの運営が始まり、授業評価から運営の見直しも検討している。

教育課程の方針や必要な資料は提示している。

組織図や組織運営の規定は整備されている。

本法人の看護学科3校の運営会議や中央研修でも、カリキュラムの効果的な運営を検討している。

小項目 Ⅲ-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

キャリア教育(具体的には臨床実習)に関しては、臨床実習の手引きに意義や指導方法について記載されている。

効果的な実習を行うために、実習指導者と連携し実習指導を行っている。また、指導者には卒業生も多数含まれている。

理学療法技術の習得のために、教授方法・演習方法を工夫している。具体的には、タブレット端末を用い実技指導や実技試験時のフィードバックや復習などに活用を行っている。

2 年次には OSCE(Objective Structured Clinical Examination 客観的臨床能力試験)を実施し、学生の能力、課題を把握するようにしている。

ICT 教育については、教育用アプリの活用、動画による実技テストの振り返り、小テストやアンケート実施などに加えて、今年度より電子教科書を積極的に取り入れることで、授業中だけで

はなく自己学習の際にも検索機能などを使用するなど、タブレット活用による教育が広がってきている。

また、悪天候による交通機関の乱れが生じた際などの遠隔授業の実施にもタブレットを活用している。タブレットの活用はひろがりを見せているが、もっと幅広く使えるように情報収集が必要である。

【看護学科】

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

キャリア教育については、1年次よりキャリア論をカリキュラムに組み入れたり、計画的に研修も取り入れて、キャリア形成のサポートを行っている。ICTを使った実習補完教材の活用を行ったり、演習ではタブレットを用いて、技術実践の状況を映し出し、クラス全員が同じ内容を確認しながら意見交換するなど、様々な場面で活用している。今後も効果的に活用できるよう工夫していく。IPEは、3年間を通して、それぞれの学年で理学療法学科と共に実施できている。

小項目 III-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

【理学療法学科】

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

学生に授業評価アンケートを実施している。

※学生からの評価について内容を検討し、よりよく評価できるように変更した。

専任教員においては、教員間での授業評価も実施し、フィードバックも行っている。

【看護学科】

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

終講試験終了時と実習最終日に学生はアプリを用いて、授業評価している。その結果は掲示し周知している。教員は内容を共有して授業改善に活用している。

技術演習やシミュレーションには教員が参加し、学生に学習状況から方法や評価の仕方など

意見交換し、次に活用している。

小項目 III-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

【理学療法学科】

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

1年次より国家試験対策を実施。3年次には、セミナーや個別指導も実施。卒業生（不合格者）へも対応を行っている。

3年生の国家試験対策では自己学習、学生同士の少人数での口頭試問、セミナー、模擬試験を連動させた計画を遂行した。また、成績不良者については早期より教員による少人数指導、口頭試問などを実施してきた。

【看護学科】

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

各学年で国家試験対策を実施し、資格取得に向けて教科外活動の研修内容など工夫している。各担当が中心となり、創意工夫し学科会議で検討している。自ら学習する力をどのようにつけさせるか、検討していく。

模擬試験の結果を可視化し、共有しながら適宜方法の修正を重ね、フォローしている。

特に3年生には各教員がチューターとしてフォローしている。

既卒生のフォローも行っているが、時期を決め連絡するが受験票提出などの必要時にのみ登校せず、次年度合格になかなか結びつかない。不合格判明時に年間計画の文書をもって説明する。

小項目 III-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

【理学療法学科】

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

学会、研修会への参加を奨励している。

今年度、法人（関連校合同）では教育に関する研修会が3回開催され、全教員が参加している。関係団体等が主催する学会や研修会にほぼ全ての教員が参加している。

研究を奨励しており、病院との共同研究も進めている。

【看護学科】

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

希望した研修に参加している。ハイブリッドでの学会も増え、各自、自己研鑽に努めている。

本法人の研修は年2回実施したが、全員が参加している。コロナの影響も緩和され、リモート

と対面両方が選択できるハイブリッド開催の学会や研修会も増え、積極的参加しながら自己研鑽に努めている。

項目Ⅳ 学修成果

総括

就職に関しては、開校以来、就職率 100%を達成している。

国家試験に関しても、教員全員で合格率 100%に向け、1 年次より取り組んでいる。今年度は、両学科ともに全国平均を上回る合格率となった。理学療法学科では、国家試験対策の一環として、土日祝日の登校や学習の為に開校時間を 20:30 まで延長し、教員の指導のもと個別学習を実施している。その結果、2 年ぶりの合格率 100%となった。

学習習慣のついていない学生が多くみられ、退学率の低減のため、成績不良者に早期から関わることや、保護者面談等を通じて学生の生活習慣から関わる等の対策を行っている。改善傾向ではあるが、十分な結果であるとは言えない。

メンタル不調を訴える学生も少なくなく、スクールカウンセラーが定期的に来校し、活用している。

課題

様々な対策を講じているにも関わらず、退学者が減少していない。

改善の方策

入学前の高校ガイダンスやオープンキャンパスなどで職業理解を深められるよう工夫するとともに、入学後早期に職業体験ができるような機会を作る。

また、学生に応じた個別性の高いきめ細やかな学習面・生活面のサポートを実施する。

学校関係者評価委員会からの意見

国家試験対策については、十分な対応をされていると感じる。特に理学療法学科については、合格率 100%であり、素晴らしい実績である。判定を「A」から「S」へと変更して良いのではないかと。様々な学生がおり、大変なことが多いと思うが、今後もより良い医療人の育成に努力をお願いしたい。

ボランティアについても積極的に依頼したいと思うので、是非とも協力いただきたい。

小項目Ⅳ-1

就職率の向上が図られているか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

目標:就職率 100%(就職希望者)

実績:100%(46 名/46 名)

就職活動状況は、毎週行われる学科会議で確認している。

昨年度の反省を生かし、3 年生には年度初めから積極的に動くよう指導した。また、1・2 年生には、自らの就職活動に意識を向ける方策として、すでに就職セミナーを実施している。

就職率等のデータは、毎年概況書に掲載され教職員へ配布されている。

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

実習施設(市内 4 施設)及び関連病院の就職説明会を対面およびリモートで実施した。今後も継続する予定である。

求人案内は図書室に掲示し、自由に閲覧できるようにしている。

就職希望者は 100%就職内定している。

マイナビ[®]による年 3 回の就職ガイダンスを実施した。開校以来、就職率 100%を達成している。

小項目Ⅳ-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: S

■コメント

昨年度実績:91.5% (全国平均 89.2%)

昨年度の結果を振り返り、修正した国家試験対策を実施している。

自己学習、学生同士の少人数でのグループワーク、教員によるセミナーなどを実施した。国家試験問題や模擬試験などの問題を解き、終日教員が教室に在中することで、質問への対応もできている。また、成績不良者については早期より教員による少人数指導など実施してきた。また、模試ごとに分析を行い、それに対応した個別指導をおこなった。

今年度目標:100%

今年度実績 国家試験受験者数 47 名(内訳:現役 46 名、既卒 1 名)

国家試験合格者数 47 名

国家試験合格率 100%

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

今年度実績: 国家試験合格率 96.6% (昨年度 87.1%) 全国平均 90.1% (新卒 95.9%)

国家試験受験者 37 名 (内訳: 現役 29 名、既卒 8 名)

(3 年生) 模擬試験を実施し、成績低迷者にチューターをつけ、夏季及び冬季にセミナーを実施した。年間を通して模擬試験を計画し、実施してきた。学生の状況を見て個別に口頭質問など指導してきたが、今後も対策が必要である。

(2 年生) 受け持ち患者の疾患の理解をするために、関連した国家試験問題を解いて振り返りをしている。また、看護計画発表の際、病態生理を踏まえ、今後の予測を立て、理解したことを皆に説明する時間を設けている。実習終了後春休み前に必須問題に取り組む予定である。

(1 年生) 新カリキュラムからポニー及びマインドマップ作成は授業科目として取り入れた。人の日常生活動作と関連させ、学習している。

昨年度から産業医科大学で解剖見学を実施している。今年度から2年生も共に学ぶ機会を得られたため、2 回解剖見学できるようになった。学年それぞれの目的を明確にして、効果的に学べている

小項目 IV-3

退学率の低減が図られているか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

退学者 7 名 ※昨年 4 名

1 年生 5 名 (退学率 14.3%) ※昨年 3 名

2 年生 2 名 (退学率 4.5%) ※昨年 1 名

3 年生 0 名 (退学率 0%) ※昨年 0 名

※ストレート卒業率 87.5% (42/48 名) ※昨年 76.4%

定期的な面談を実施している。

学生状況の早期把握と教員間の情報共有を実施している。

気になる学生に関しては、早期に面談等の対応を実施している。

校内カウンセラーによるカウンセリングを実施している。

保護者との電話連絡や面談を実施している。

面談記録、経過記録を作成し、一定期間保管している。

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

退学者数: 1 年生 5 名 * 昨年度 2 名

2 年生 1 名 * 昨年度 6 名

3 年生 1 名 * 昨年度 2 名

全体退学者数 7 名 (* 昨年度 10 名)

ストレート卒業率 70.7% (昨年度卒業生 83.7%)

29/41 (ストレート卒業生数 / 令和4年度入学者数)

支援状況

担当を中心に定期的に面談を実施している。気になる学生へは声をかけ、面談を実施。

保護者への連絡を行い、必要時三者面談実施している。

メンタル不調の学生に対してはスクールカウンセラーを促し、専門医への受診の促しも実施した。学科会議の時に教員間で情報共有を図り、皆で支援している。

小項目 IV-4

学生の社会的な活動を把握しているか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

ボランティア活動、地域清掃、地域のイベント等の参加状況の把握を行っている。

キラリンピックには、1 年生 6 名、2 年生 12 名の合計 18 名が参加している。

高齢者向けのスマホ教室には 1 年生 2 名が参加している。

海峡マラソンのボランティアに 1 年生全員 (32 名) が参加している。

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

学生のボランティア活動など推進し、キラリンピックや地域清掃を実施した。また、関連病院が主催する大規模災害訓練に傷病者役として参加し、医療従事者の活動を通して、学生に刺激を与えている。

項目 V 学生支援

総括

各学年及びクラス担任(副担任)制を取り、定期的に学生との面接を実施している。成績や出席状況に合わせ、保護者とも連絡を取り合っている。年に1回保護者会を開催し、学校生活の状況や国家試験に向けての取り組みなど説明し、連携を図っている。

就職活動セミナー、マナー講座、履歴書作成指導、面接指導を実施するとともに、就職活動状況を随時把握し、情報の共有を図り指導に役立っている。就職説明会の開催、関連病院説明会等を活用して、就職活動を支援している。

課題

学力、コミュニケーション能力(対人関係)、家庭環境など、複雑な面で課題や問題を抱えている学生が増えてきている。

改善の方策

学生・保護者と密な連携を図るとともに、早期からの学習支援、カウンセラーの促し、経済的支援の積極的案内など、個別性を意識した支援を早期から実施していく。

学校関係者評価委員会からの意見

特になし。

小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

学生の就職活動状況を随時把握し、学科会議にて情報共有を図っている。

就職状況を伝え、積極的な就職活動を促している。

関連病院を含めた就職説明会、関東のグループ病院の就職説明会、グループ校を優先した関連病院の就職試験の実施等、関連病院との連携が図られている。

3月～4月には、マナー講座、就活セミナー(スーツの着こなし講座など)を実施した。

外部施設を招いての就職説明会については、3校合同1回、本校単独1回の2回を実施した。

3年生全員に対し、就職試験のたびに、履歴書作成指導、面接指導を実施した。

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

3月に実習施設市内4施設と、関連病院の就職説明会を実施した。

4月実習前に就職ガイダンスを行い、就職先の決め方や、願書履歴書の書き方など指導している。実際に提出する際には内容を確認し、清書させ提出している。

昨年度よりマイナビの説明を3回取り入れている。

未履修科目を持っていると就職活動ができない為、できるだけ未履修科目をとらないよう1・2年次よりしっかり学習させる体制をとっていく。

小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

下記の通り体制を整備している。

・担任制: 定期面談の実施、必要に応じ随時面談実施。

・必要に応じ役職者を交えた面談実施。

・必要に応じ保護者面談の実施。

・校内カウンセラーの配置し、学生の希望によりカウンセリング実施。

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

担当を中心に面談する体制をとっている。必要時役職者と共に面談を実施している。

カウンセラーと連携をとっている。

必要時保護者との面談実施。

学科での学年報告時に報告し、情報及び指導について共有している。

小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

【理学療法学科】

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

下記の通り保護者との連絡体制をとっている。

・成績や生活面で気になる学生に関しては早期に保護者連絡を実施。

- ・必要に応じて保護者面談の実施。
- ・迅速な発信として、公式 LINE にて情報を発信した。
- ・1年生、2年生の保護者会を対面とオンラインを組み合わせる実施。
- ・緊急時の連絡先の把握ができています。

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

再試験になった科目が発生した時や、態度その他気になるときに担当が中心となり、保護者と連絡をとっている。

各学年保護者会を実施した。保護者への一斉メールとしてスクリーンを活用している。

小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

高校のキャリア教育の受け入れについて、今年度は、厚狭高校(30名)、下関北高校(35名)、下関西高校(5名)、梅光学院高校(1名)から申し込みがあり、それぞれ対応した。

高校訪問、高校ガイダンスでの情報提供を実施した。ガイダンスについても、昨年度と同等の参加をすることができた。

中学校からの依頼もあり、日新中学校(10名)、山の田中学校(10名)、長府中学校(3月14日)について対応した。

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

高校のキャリア教育の受け入れについて理学療法学科とともに、それぞれ対応した。

また、中学校からの依頼に対しても、理学療法学科とともに対応した。

高校訪問やガイダンスに積極的に参加し、看護師の職業理解や進学、進路といったキャリアビジョンにも貢献している。

小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

学校(法人)独自の支援として以下の制度等を実施している。

- ・早期入学者に対する初年度授業料減免制度
- ・家族入学割引制度
- ・特待生減免制度
- ・社会人入学金免除制度
- ・災害被災に伴う学資支援制度(法人)
- ・学生寮を完備

情報提供については、学生支援機構等の情報も含め、HP やパンフレットにて実施している。

また、学内に奨学金専用の掲示板を設置し随時掲示している。

項目 VI 教育環境

総括

施設・設備・備品・図書等については、設置基準ならびに関係法令に適合し、学習効果を向上させるためにプラスアルファで揃えている。

今年度も電子書籍の増加、クラウドツールの積極的利用、講義資料の配信、アンケートの実施など、ICT 教育を進めている。

両学科科が共に在ることを活かし、シミュレーション教育を取り入れ、IPE も実践した。学年ごとに目標を立て、実践した。今後も3年間を通しての学びを計画する予定である。

卒業生に対しても図書室等の利用を可能とし、卒後のスキルアップに活用できるようにしている。防災訓練についても、計画を立てて防災避難訓練を年1回、災害時の対応に関する映像視聴を1回実施した。

課題

開校して20年が経過し、劣化等がみられる備品・設備がある。

改善の方策

予算計画を立て、適宜購入や入れ替えを実施する。

学校関係者評価委員会からの意見

災害発生時には、学校を一時避難場所として開放してもらいたい。

小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

指定規則に挙げられている施設・設備・備品、図書をそろえとともに、プラスアルファの機材・教材をそろえている。

卒業生について、図書室・情報処理室を提供し、卒業後も個々のスキルアップのために利用している。

施設・設備等定期的に点検を行い、補修が必要な箇所については、予算を付けて対応している。

学校備品については備品台帳で管理し、購入・廃棄について明確にしている。

学生に対し教育教材(備品)の取り扱いや返却方法の指導を行っている。備品の貸し出し、返却時の記録簿を作成するとともに、教員へも周知徹底をはかっている。

令和5年度に、外壁の補修・塗装をした。

開校から20年が経過しているため、各種教材を買い替えていく必要がある。

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

学習設備は必要に応じて点検・整備なされている。

学習に必要な設備投資も適切になされている。

臨床判断能力の育成のため、シミュレーション教育も強化しており、学習教材など学生の学生に合わせて創意工夫しながら実施している。

教材購入計画に沿って、必要な教材をそろえている。定期的に施設設備の点検を実施し、修理補修しており、損発生時には早急に対処し、破損予防について皆で共有している。

小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

【理学療法学科】

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

臨床実習や対人関係演習など、カリキュラム内の科目に関する実習施設は十分に確保されている。

教育体制については、法人内のリハビリ関連4校と関連病院との連携が十分にとれ、本校においても教員が実習訪問し指導者との調整や学生指導を実施している。

【看護学科】

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

指定規則にそって、必要な実習施設は確保できている。またその施設とも実習指導者会議を行い、情報交換し指導内容や評価に反映させている。

小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

年1回の消防避難訓練を実施し、記録も適切に保管している。

消防設備等の整備及び保守点検は法令に基づき行い、改善が必要な場合は適切に対応している。

今年度の消防訓練は、5月に実施した。

災害対策マニュアルを配布し周知をはかった。

災害訓練として、クラスごとで映像を視聴することにより、日ごろの備えや避難方法について意識づけを行った。

関連病院が主催する大規模災害訓練に傷病者役として2年生が参加。防災への対応について実体験を通して学習した。

項目VII 学生の募集活動、広報活動

総括

学校パンフレットやホームページ、オープンキャンパス・学校説明会での情報提供以外に、定期的な高校訪問、高校教員向け学校説明会を年2回開催、学校ガイダンス等にも積極的に参加している。

課題

少子化、高校再編等が進む中、学生募集はさらに難しくなることが予測される。

改善の方策

今後も学生ひとりひとりを大切に教育を実践し、学修成果を高めていくことで高校生・保護者、社会人、高校教諭の方々、そして地域からの信頼を高めていく。また、本校の特色である、関連

病院との連携、ICT教育、看護学科との共に行う専門職連携教育を推進し、魅力ある学校造りを行っていく。

今後も様々な方法で情報発信を行い、本校の魅力を伝えていく。

学校関係者評価委員会からの意見

特になし。

小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

高校訪問、高校ガイダンスでの情報提供を実施した。ガイダンスは、昨年度と同等の参加をすることができた。

小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

パンフレット、HP、学校説明会、オープンキャンパスでの情報提供を実施している。また、志願者からの問い合わせに対し、個別に対応を実施した。学校説明会やオープンキャンパス参加者の方々からは好評を得ている。

今年度も、オープンキャンパス・学校説明会を日曜日だけでなく、土曜日にも実施するなど、異なる時間にも計画することで、参加者が選択できる設定とした。

内容については、実施日ごとに「病院見学」「入学選抜対策」「卒業生の講話」「体験会」などを計画し、様々な内容の企画を実施した。

項目VIII 財務

総括

事業計画に基づき予算が計上され、適切な運営がなされている。財務は法人本部と各学校財務で確認を行う2重チェックで財務管理が行われている。また、決算及び予算については、理事会で検討・承認が行われ、会計監査の実施により、適正に行われている。また、事業計画については、学内の両学科で検討・調整を行い、予算計画を立てて運営している。

課題

少子化、高校再編等が進む中、学生募集はさらに難しくなることが予測されるが、しっかりと入学者を確保し、今後も財政を安定させていく必要がある。

改善の方策

教育と並行し学生募集活動も積極的に取り組んでいく。

学校関係者評価委員会からの意見

特になし。

小項目 VIII-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

受験者(応募者)数、入学者数、卒業者数、定員充足率などの推移を把握している。

中長期的な計画の下、学校運営がなされている。

法人全体としても安定した収入と資産があり、財政基盤は安定しているといえる。

本校においても入学者は減少傾向にあるものの、経費削減に取り組んでいる。

学生募集については、より実績が見込めるツールへの転換を図り、安定した収入となるよう計画している。

小項目 VIII-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

学校の運営方針に沿った事業計画に基づき、両学科が調整を図ったうえで予算を計上し、法人本部・理事会で承認された予算が通達される。それに基づき本校では適切な運営がなされている。

小項目 VIII-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

財務は、法人本部と各学校の2重体制の管理が行われている。また、法人および本校に対して外部監査が年間に複数回行われており、これまで特に大きな指摘は受けていない。

項目Ⅷ 法令等の遵守

総括

法令順守は、法人全体で取り組まれている。本校においても①学校基礎調査②専修学校各種学校評価③学校指定規則に基づく報告を毎年行い、法令を遵守している。

個人情報保護に関しては、法人全体で規定を設けており、教職員及び外部講師、学生が遵守すべき事項が定められている。臨床実習における学生の個人情報保護については、SNSの取り扱いを含めて指導を徹底している。

課題

特になし。

改善の方策

特になし。

学校関係者評価委員会からの意見

特になし。

小項目Ⅷ-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適合

■コメント

学校法人でハラスメント委員会を設置し、各校から委員が選出されている。

ハラスメントマニュアルも策定している。

「専修学校実態調査票」を文科省へ毎年提出し、入学者数、卒業者数、教員数(名簿添付)等を報告している。

養成施設指定規則を遵守し、教員数の確保、カリキュラムの作成、施設・教材等の整備を行っている。

小項目Ⅷ-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適合

■コメント

個人情報法に関しては法人全体の規定を設けており、教職員及び外来講師、学生が厳守すべき事項が定められている。

実習における個人情報保護に関しては、SNSの取り扱いも含め指導を徹底している。また、教職員に関しても個人情報の管理についての注意喚起を定期的に行っている。

外部企業による学生向け情報リテラシーの講義を実施している。総括の通りである。

項目Ⅸ 社会貢献・地域貢献

総括

関連職能団体や関連病院等に施設貸し出しを実施している。また、理学療法学科教員による高校の部活動支援、下関市の介護認定審査委員なども引き受けている。

学生へのボランティア活動についても、依頼があった募集については、掲示板に掲載し参加を促している。

課題

ボランティア等の協力体制について、関係団体に積極的に広報できていない。

改善の方策

地域の方々や関連団体に対して、様々なボランティア・サポート活動を行うことができる旨を伝え、多くの依頼を受け入れられるような体制を作る。

学校関係者評価委員会からの意見

特になし。

小項目Ⅸ-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

産学連携に関する方針・規定については、協定書に記載。

関連病院、職能団体や卒業生へも施設の貸し出しを行っている。

関連病院職員、卒業生へも図書閲覧を許可している。

近隣中学校の職場体験受け入れや職業理解のための出張講座を実施している。

理学療法学科教員による、職能団体の理事や下関市の事業(介護認定審査会)へ協力はなされている。

小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

学業に支障のない範囲で、ボランティアへの積極的な参加を促している。

窓口として教員を配置し、情報収集および学生への伝達を行っている。